

## 第1回

### 第2次宇城市総合計画審議会 会議録（概要）

#### 1 開会（事務局）

#### 2 委嘱状交付（市長）

欠席：吉良委員、中山委員、坂本委員、中塘委員、林田委員、横尾委員

#### 3 市長挨拶

第1回の第2次宇城市総合計画審議会会議にご出席いただきありがとうございます。

宇城市では、平成17年度から26年度までの10年間を計画期間とする第1次総合計画を策定し、平成25年度からは総合計画の重点施策として「可能性への追求プロジェクト」を策定して、まちづくりを進めてまいりました。

この間、五大プロジェクトの一つである「豊野小中一貫校校舎」が完成し、去年は「三角西港が世界文化遺産」に登録されました。この他、「宇城・氷川スマートインターチェンジ」の開通や「JR松橋駅駅舎と駅の東西を結ぶ自由通路」の完成など、着実に事業が進行しており、一定の成果が挙げられていると感じております。

一方で、社会・経済情勢は著しく変化してきており、国においては地方創生や一億総活躍社会の実現を掲げるなど、新しい動きが出ております。

本市におきましても、熊本地震からの復旧・復興や人口減少、少子高齢化、さらには行財政改革など対応すべき大きな課題が山積しており、将来の宇城市を見据えたまちづくりへと発想を転換してまいりたいと考えております。

新たに策定する「第2次総合計画」には、このような課題を盛り込んだものとして、現在作業を進めております。

これからの総合計画審議会でご提案させていただく骨子・方向性について、委員の皆様には忌憚のないご意見、議論をご期待しているところです。

#### 4 審議会設置条例の説明

（事務局）

- ・資料の宇城市総合計画審議会条例に基づき説明。

#### 5 会長及び副会長選任

※会長：熊本県立大学教授 井田 貴志 氏

※副会長：宇城市地域婦人会連絡協議会会長 濱崎 壽子 氏

(会長挨拶)

・宇城市の人口ビジョンと総合戦略策定に携わらせていただいた。総合計画は宇城市の様々な施策の最上位に位置するマスタープランと呼ばれるものである。

総合計画の策定にあたっては、多岐にわたる分野について実現可能な施策、かつ希望の持てる施策が策定できるようなものとなる、下地となるものと位置づけられる。そうしたものを含めて、円滑かつ迅速な審議に努めていく。

(副会長挨拶)

・微力ではあるが、宇城市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員として人口ビジョンと総合戦略策定に関わった経験を生かして頑張りたい。

## 6 諮問

・総合計画の策定について、市長から井田会長へ諮問。

## 7 議事

### (1) 第2次宇城市総合計画の策定について

(事務局)

#### 計画策定の趣旨

- ・人口減少や少子高齢化を見据え、戦略的かつ効果的な行政運営を図るために策定する。各分野で個別の計画はあるが、総合計画は市政における全ての施策の基本となるもので、市の最上位の計画。
- ・平成17年度に10年間の第1次総合計画を策定した。この計画が26年度で終了したため、総合計画に準ずる指針として位置づけた「可能性への追求プロジェクト」を運用し、市政を進めている。この、「可能性への追求プロジェクト」も28年度で終了するため、29年度からの第2次総合計画を今年度策定する。
- ・合併して11年、社会・経済情勢が大きく変化しており、今後、人口減少と少子高齢化の急速な進展が現実のものとなっており、「地方創生」の取り組みで「宇城市人口ビジョン」と「総合戦略」を策定した。
- ・熊本地震と豪雨災害からの復旧・復興も重点課題のひとつであり、いち早く復旧・復興計画を市民に示す必要がる。
- ・第2次総合計画は「地方創生」と「復旧・復興」を新たに加え、これまで以上に中長期的なまちづくりの視点に立った策定が求められている。計画の策定にあたっては、第1次総合計画を継承しつつも内外の社会変化を受け止めた上で、変えてはいけないものと、変えなければいけないものを峻別し、今後、宇城市が進むべき方向性を定めてまいりたい。
- ・出来あがった素案は、この審議会や議会の意見をいただきながら最終的には審議会の答申をもって策定する。

### 計画の期間と構成

・第2次宇城市総合計画は、「基本構想」、「基本計画」及び「実施計画」で構成する。計画期間は基本構想が36年度までの8年間、基本計画を前後期それぞれ4年、実施計画を3年の期間とする。実施計画は、財政状況にも深く関係してくるので毎年見直しを行いながら進めていく。

### 策定スケジュール

- ・第2次総合計画は、来年3月の策定を目指したい。そのために、庁内各部署で係長を中心に素案の検討作業を進めている。
- ・審議会は総合戦略の策定まで5回の開催を予定している。2回目、3回目は部会ごとに、具体的な議論のポイントを示しながら進めていく。次回は基本計画の素案を提案する。4回目から全体協議に移り、5回目で素案を確定し、市長に答申する計画で進めていく。
- ・議会には、12月と2月に進捗状況を報告したい。
- ・基本構想、基本計画は確定後、市のHPや広報紙で市民に公表する。

### 部会の設置について

- ・2回目から部会を設置し議論をお願いしたい。
- 基本構想の政策を8分野（「Ⅰ震災復興」「Ⅱ教育文化」「Ⅲ生活環境」「Ⅳ健康福祉」「Ⅴ産業経済」「Ⅵ都市基盤」「Ⅶ行政運営」「Ⅷ地方創生」）考えており、基本計画は、この8つの政策に分かれた形で策定されていく。計画の検討内容が宇城市の行政の多岐にわたり盛りだくさんになるので、4つの部会に分かれて専門的、集中的にご審議をお願いしたい。市の関係部署も加わり、皆さんの質問に回答し、また、意見・提言を拝聴するなどして修正案に反映する形で進めていく。

### 基本計画、実施計画の作業の進め方（様式の記載例等）について

- ・地方創生（総合戦略）と復旧復興を含め8つの施策分野で総合計画を作成する。これらをコンサルタントに委託することなく、自前（職員）で作成する。
- ・1次総合計画と可能性への追求プロジェクトを総括し、現状と課題を記載する。
- ・前期の基本方針は、部門別プロジェクトの進め方について記載する。
- ・今回、最も重要視しているのが成果指標である。基本方針に沿って実施した結果をどのように評価するのか。誰も管理しない計画であってはならない。評価の指針が重要である。
- ・プロジェクト別基本計画では、具体的な計画の概要を示す。
- ・基本施策は、指標に合わせ前期の事業をどのように進めていくのかを記載する。
- ・夢と希望を調和させながら作成する。

### (2) 質疑応答

(会長) 総合計画の策定について、ご意見いただきたい。

(委員)

・地方創生では総合戦略の策定を前提に交付金が国から配分された。総合計画の執行には予算が必要である。総合計画を策定したら国から予算措置があるのか。

(事務局)

・総合計画策定では国の予算措置、補助金はない。十分な財源と制度の裏付けがなければ絵に描いた餅になる。地方創生は制度創設から5年間は予算措置があると考え。総合計画には地方創生も盛り込んでおり、そうした国の補助には積極的に手を挙げて取り組んでいく姿勢で進めてまいりたい。

(委員)

・1次計画では63,000人の人口を70,000人になると計画したが、現実には60,000人を割っておりマイナスの現状である。今回は4つの部会に分かれて審議していくが、どの部門が想定よりマイナスの結果に触れたのか、その総括は如何か。

(事務局)

・当時は雇用創出、若年層の流入も含めた中で計画を考えた。70,000人は希望を抱く数字であり、現実を見た数字ではなかった。今は60,000人を割る状況であり、人口ビジョンで示したように2060年の人口を41,000人程度にとどめるため、1次計画の反省も踏まえ計画を立てていく。

(委員)

・地域審議会でも1次計画の総括部分にコメントいただくよう依頼があったが、分厚くて読むだけで労力がかかった。まとめたものは報告されているのか。

(事務局)

・返ってきたのがほとんどなかった。反省点であるが、市民が見て読んでもらえないものは作ってはいけない。2次総合計画は、わかりやすい表現に努める。

(委員)

・総合計画だから総花的にするのはなしかたない。合併後10年経過しており市として重点的なこと、どこかで濃ゆい部分を打ちだして市民に啓発していけばほかの分野まで目が映っていくのかなと思う。

(事務局)

・ご意見は基本構想の部分であると思う。基本構想は市長の方針を含めた中で打ち出して、皆さんの中で決めていただければと思う。市民の意見を聞くのがこの場であり、今後市が進むべき8年間を議論し一緒に進めていければと思う。

(委員)

・災害の復旧復興も計画に入れるとのことであるが、どこの部会に所属するのか。

(事務局)

・県が復興プランを作っている。また、各部署で現在進めているものもある。まずはそれらを集めて皆さんに示し、足りない部分は皆さんから意見を頂戴したい。

## 自己紹介及び意見交換

(会長)

・自己紹介と宇城市の現状あるいは将来こうあったら望ましいのではないかとといったご意見を賜りたいと思う。

(委員)

・会員の高齢化で文化祭等のイベント出演者や出品、展示物も少なくなっている。県が子供芸術祭を行っているが、いずれは宇城市に順番が回ってくる。文化面で子どもに新しい息吹を育てたい。

・ニュースポーツの指導や総合型地域スポーツクラブの普及に努めるなど市民がスポーツを楽しんでもらえるような活動を行っている。今後、多方面な方々と連携を深めながら何が出来てくるかを考えていかねばならない。

・ダンボールコンポストによる生ごみのたい肥化を進める活動を行っている。温暖化やごみの問題など環境については山積みである。11月の広報に環境をPRしたが、どれだけの人が目をとめてくれたのか。環境のことは行政と一体となって訴えていかねばならない。

・震災で地域の一人暮らしの方たちに心を懸けて来た。孤独死をださないよう見守りに力を入れて、少しでも安心して暮らせる地域づくりに役立てられるように頑張っている。

・高血圧と診断された方がワースト1のため、健康づくり推進員176名は改善に向けて努力している。総合計画は市民の行動が伴わなければ、策定はただの本になるだけである。皆が真剣に取り組む計画であれば策定後の市民への告知を如何に進めるか、我々も協力したい。

・人口を4万人に留める目標を掲げているが、高校生や大学生を熊本で留める視点が必要。そのなかで宇城市が選ばれるためには、土地の活用や住宅の立てやすい環境が必要になってくると思う。1、2年の間で土地の紹介や格安の住宅建設など宇城市が率先して出せるプランが出来ればと思う。

・市は丁寧な障がい者福祉サービスを計画どおり行っており、宇城市の障がい者施設には市外からの入所も多い。人口減少が急速に進んでいるが、障がい者や高齢者、妊婦など弱者に住みやすい、サービスが充実した宇城市であれば転入もあると思う。

・訪日観光客が2000万人を超えた。政府は2020年に4000万人を目標としている。訪日観光客が地方に足を運んでもらうためには受け皿が大事。そのためには人、モノ、カネがいるが、特にカネをどう予算化していくかが重要である。受け皿が厳しくなれば宇城市は通過点になる。

・市の認定農業者は700戸。後継者不足や高齢化、耕作放棄地の拡大という現状がある。市の総合戦略では、「稼ぐ力」が掲げられており、まさに今の農業に当てはまる言葉である。観光物産協会や商工会等との連携による販路の拡大も必要と思う。また、国営基盤整備事業や用水の安定供給の問題にも取り組んでいかねばならない。

・地震と豪雨を受け、災害に強いまちを創るのが一番と思う。

また、若者や子育て世代が定住する「まち」にしていてもらいたい。そうすれば人口も止めることが出来るのでは。県北の菊陽町、合志市、大津町は元気のある「まち」と言われている。宇城市も県南の元気がある「まち」に位置づけられたら良い。

・震災の復興が非常に大事。高齢者の中には家を建て直す資力がなく市を離れる人もおり、人口減少は進んでいくと思う。第1次総合計画は5町合併でバラ色の未来を描いたのではないかな。第2次は現実に即して復興も含めて未来を見据える計画が出来ればと思う。

・熊本地震で感じたことは、地域コミュニティが如何に大切かということ。人口減少で厳しいかと思うが、地域コミュニティを大切に守り育てる視点がこれから重要である。

・婦人会の九州大会が熊本で開催され、代表として発表した。会員は減少しているが婦人会をどうにかできないかと「組織づくり」について、これまで取り組んできたことを発表した。これからもいろんなことを考えながら取り組んでいきたい。

・足元からできることをやっていくようにすれば良い。実行可能な部分を委員各位が専門されている部分で、市としてできることを積み上げていけば実りあるプランが出来る。

数値目標も実行可能なもの、当然上げる目標なのでこれはできるというものを積算して作っていければと思う。

## 8 その他

### (1) 世界文化遺産三角西港プロモーション映像の紹介

・9月24日に行われた「Drone Challenge in 三角西港」で撮影された映像を素材とした、三角西港プロモーションビデオ(PV)の鑑賞。

## 9 閉会

【次回会議】平成28年11月29日(火)午後2:00～